

Reference data:

脇忠幸 (2013) 『言語データ分析のための方法論—談話分析と会話分析—』 . In Reinelt, R. & Ogawa, T. (eds.) Communication and Medical Communication 2013. CAJcs & MCERS, Matsuyama, p. 37 – 39.

第14回日本コミュニケーション学会中国四国支部大会
医療コミュニケーション教育研究セミナー(第6回)

2011/12/17-18

言語データ分析のための方法論 —談話分析と会話分析—

広島国際大学 (非)
脇 忠幸

1.はじめに

★会話の分析をめぐる方法

- 談話分析
 - ・機能言語学
 - ・語用論
 - ・相互行為の社会言語学
- 会話分析
- エスノメソドロジー
- 相互行為論

★全体像を比較

	談話分析	会話分析
●背景...	言語学	社会学
●目的...	「言語」の追究	「社会」の追究
●方法...	演繹法	帰納法

決定的な差は・・・「文法」の扱い

より適切な視点は、文という単位が相互行為への参加を調整する仕事のためにも利用可能な、1つのリソースだということである。その利用の方法は、通常の意味での文文法を超えている。(串田2005, p. 57)

2.目的と方法

★談話分析+会話分析？

コミュニケーションを追究するには・・・
社会→言語、言語→社会の両面からの分析が必要。

⇒「いいとこ取り」がしたい。
⇒同一データを談話分析と会話分析のそれぞれから分析。
～同一データを対象という方法自体も検討の対象

3.会話データ

- 対象:「笑っていいとも」の「テレホンショッキング」
- 日時:2011年11月。約12分間のうちの2分間。

～基本的に2者間会話であること。
～生放送であること。

4.分析と考察 4.1 談話分析 編

★どのような構造？話題展開？

テーマ①「次に行きたい場所」について(01T
～14N)

テーマ②「以前行った場所」について(15T～
34N)

テーマ③「カーニバルめぐり」について(35T
～49N)

★各テーマにおける構造

Tの質問・情報提供→Nの応答→Tの評価
このコーナーの談話構造

～トーク番組(ホストとゲスト)の談話構造

★どのようなストラテジー？

⇒テーマ②と③における指示詞と終助詞
に注目

TもNも地図(と船)を想像しながら会話(15T
～47N)

～非言語行動から傍証

⇒共有知識(推測)を前提。

⇒共有知識を常に参照しないと会話続行
は困難(×まとまりのある話)。

⇒A系指示詞と終助詞「ね」「よね」

●A系:発話時点の談話の世界から遠く隔
たった、情的に関心のある対象を共
に見つめる共感を促す(メイナード
2006)。

●終助詞「ね」「よね」:共有知識を作り、確認
する(大浜2004)。

⇒共有知識を常に確認しあうことで、会話の
展開を維持。

～共有できない客⇒48Tの説明

4.2 会話分析 編

★どのような関係性？

質問(T)－応答(N) ～ ホストーゲスト
未経験者－経験者
(非専門家－専門家)

↓

32N「あそこ行きたいくないですか？」

質問(N)－応答(T) ～ 同じ欲求を持つ者

⇒同じ話題中、質問(T)－応答(N)無し。

↓

Tのメタ的な発話(48T) ～ Tの一旦離脱

⇒非言語行動で副次的連鎖であることを表示。

4.3 談話分析+会話分析 編

★再び談話分析へ

32Nを境に・・・

N「です」→「っす」「んす」

⇒ポジティブ・ポライトネス

⇒心理的な距離が近づいた。

談話分析と会話分析の間を往還すること
で、より詳細な分析が可能に。

5.おわりに

必要なこと？

◎手段の目的化を検証

◎理論的整合性

⇒実践と修正

◎同一データを複数のアプローチで分析

⇒すでに誰かが？

参考文献

- 串田秀也 (2005)「参加の道具としての文」串田・定延・伝(編)『活動としての文と発話』ひつじ書房, pp. 27-62.
- メイナード, 泉子, K. (2006)「指示表現の情意—語り手の視点ストラテジーとして—」『日本語科学』19, pp. 55-75.
- 大浜るい子 (2004)「終助詞「よ／ね」の機能再考—文脈指定機能—」『広島大学日本語教育研究』14, pp. 1-7.